

# インターネット 動向紹介

2024年2月～2024年5月の  
インターネットトピックス

INTERNET TRENDS  
introduction

2024.02 ▶▶▶ 2024.05



▶ IP Address Topic ▶ Technology Topic ▶ Domain Name / Governance

## IPアドレストピック

IPアドレスに関する動向として、2024年2月から3月にかけて開催されたAPRICOT 2024/APNIC 57カンファレンスの情報をお届けします。

01 2024.2.21～3.1  
タイ/バンコク

APRICOT 2024/APNIC 57



## APRICOT 2024/APNIC 57カンファレンス報告全体概要および アドレスポリシー関連報告

APRICOT 2024/APNIC 57カンファレンス(以下、APRICOT 2024/APNIC 57)が2024年2月21日(水)～3月1日(金)にかけて、タイ・バンコクにて開催されました。本稿では、APRICOT 2024/APNIC 57の開催概要と、アドレスポリシーに関する議論の動向についてご紹介します。

### ▼APRICOT 2024/APNIC 57開催概要

APRICOT 2024/APNIC 57は10日間の会期のうち、2月21日(水)～2月24日(土)をワークショップウィークとして、Advanced BGP、Cyberwar Defence、Network Automationなど、さまざまなテーマを掲げたワークショップが行われ、2月27日(火)～3月1日(金)は議論の場となるカンファレンスウィークが行われました。

カンファレンスウィークでは、アドレスポリシーやルーティングセキュリティ、NIR(National Internet Registry; 国別インターネットレジストリ)、ソーシャルな課題など特定分野に関心を持つ人達が議論を行う「SIG(Special Interest Group)」や、カンファレンスの総括および全体報告が行われる「AGM(APNIC General Meeting)」、その他各種技術に関する講演等が開催されました。

主催者報告によると、今回のAPRICOT 2024/APNIC 57では世界54の国と地域から、オンサイトで764名、オンラインで91名が参加しました。前年のAPRICOT 2023/APNIC 55のオンサイト参加者は717人、オンラインで110名であり、人数自体は大きく変わりませんがオンサイトに集まる傾向に戻ってきています。

会期中のセッションについては、動画、資料および発言録がWebで公開されています。もし興味のある内容がありましたらぜひご確認ください。

APRICOT 2024/APNIC 57プログラム

<https://conference.apnic.net/57/program/schedule/>

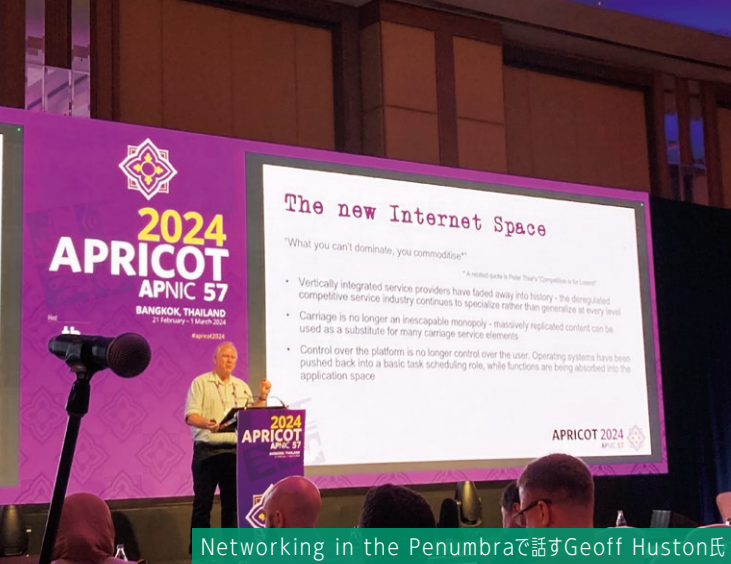


またJPNIC BLOGでもフォトレポートを公開しています。

APRICOT2024/APNIC57 フォトレポート

<https://blog.nic.ad.jp/2024/9657/>





Networking in the Penumbraで話すGeoff Huston氏



スポンサーへの感謝状の贈呈。退任が予定されているAPNICの事務局長Paul氏(左)からJPNICに記念品をいただきました。

## ▼APNIC EC選挙結果報告

APNIC理事会は、会員により選出されたExecutive Council (EC、理事) 7名およびAPNIC事務局長の計8名で構成されています。APRICOT 2024/APNIC 57ではEC選挙が行われ、最終日のAGMでその結果が公開されました。今回の選挙から、APNICでは選挙管理委員会を設置し、候補者の資格確認および行動監督を行いました。当センターの前村は今回この選挙管理委員に選出され、その役割を担いました。選挙では、改選議席三つに対して、5名(うち現職3名)が立候補となりました。投票は、事前にWebサイト上で立候補者のプロフィールが公開され、投票手続きはすべてオンラインで行われました。

今回の選挙では、現職の3名が再選されることとなりました。

APNIC理事会の新体制は、下記の通りになります。

- ★ **Achie Atienza氏** (Globe Telecom/フィリピン)
- Anlei Hu氏 (CNNIC/中国)
- ★ **Kam Sze Yeung氏** (Akamai Technologies/香港)
- Kenny Huang氏 (TWNIC/台湾)
- 松崎吉伸氏 (IJJ/日本)
- Paul Wilson氏 (APNIC事務局長/オーストラリア)
- Roopinder Singh Perhar氏 (Netplus Broadband Services Pvt. Ltd./インド)
- ★ **Sumon Ahmed Sabir氏** (Fiber@Home Limited/バングラデシュ)

★が今回選出された3名

今回選出された3名は、2年後の2026年3月までECとして任期を務めることになります。

## ▼APNIC事務局長Paul Wilson氏の退任発表

AGMの場において、APNIC事務局長のポジションを25年以上にわたって務められてきたPaul Wilson氏が退任予定であることが発表されました。その後、同氏は2024年6月30日をもってそのポジションを退かれました。現在後任選出のプロセスはECによって進められているとのことで、Paul氏は2024年末までは後任者へのサポート

を引き継ぎを行うとのことでした。

なお、長年のAPNICコミュニティへの貢献を称え、APRICOT 2025/APNIC 59でお別れ会を開催する予定です。

APNIC Blog: Paul Wilson to finish his service as APNIC Director General

<https://blog.apnic.net/2024/03/01/paul-wilson-to-finish-his-service-as-apnic-director-general/>



## ▼オープンポリシーミーティング(OPM、ポリシーSIG)での議論とその結果

今回のAPRICOT 2024/APNIC 57では4件のポリシー提案について議論が行われました。

コンセンサス形成の意思表示は、参加者の挙手でを行います。サポートとしてConfer (<https://confer.apnic.net>) と呼ばれるリアルタイムに意思表示を視覚化するツールが利用されています。ポリシーSIGチェアはこれらの様子を総合的に判断し、ポリシー提案がコンセンサスを得ているかどうか、判断します。

以下では、4件のポリシー提案の議論結果についてご紹介します。提案の内容や事前情報に関しては、JPNIC Blogにまとめていますので併せてご確認ください。また、IP-USERSメーリングリストでは、カンファレンス開始前にJPOPF運営チームによって、日本語での提案紹介および意見募集が行われています。今後の動向把握には、IP-USERSメーリングリストの登録をぜひお願いします。

APNIC 57でのIPアドレス・AS番号分配ポリシーに関する提案のご紹介

<https://blog.nic.ad.jp/2024/9567/>



IP-USERSメーリングリスト

<https://www.nic.ad.jp/ja/profile/ml/mailman.html#join-ip-users>



	prop-154:「IXP向け割り当てアドレスサイズの変更」
提 案 者	Simon Sohel Baroi氏, Aftab Siddiqui氏 <a href="https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-154/">https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-154/</a>
概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>IXP向け割り当てのデフォルトサイズを/26とする。</li> <li>60AS以上のピアを計画または証明できる場合、/25まで割り当てを受けることができる。</li> <li>100AS以上のピアを計画または証明できる場合、/23まで割り当てを受けることができる。</li> <li>保有IPv4アドレスが/24以下のIXPは利用率が60%を超えていることを証明することで、リナンバにより/23まで割り当てを受けることができる。</li> <li>保有IPv4アドレスが/23のIXPは利用率の60%超えを証明することで、リナンバにより/22まで割り当てを受けることができる。</li> </ol>
結 果	コンセンサス

前回APNIC 56から継続議論となっている提案です。本提案は、RIPE NCCで実装された提案を一部改変して、APNICでも実装しようとした提案です。IXPはAPNICから/23分のIPv4アドレスの分配を受けることができますが、実態として多くのIXPでは持て余す量となっており、効率的・効果的な分配となっていないと提案者は主張しています。そこでデフォルトの割り当てサイズを/26に縮小し、ピアリングの数や利用率を条件として、追加での割り当てを受けられるようにしようというのが本提案でした。

前回の提案時からの変更点として、各サイズでの割り当て条件の緩和が行われました。前回争点となったリナンバリングを条件としてしまうことによる、IXP事業者の工数・負担増加の課題は解決されていませんでした。

しかし、会場での議論ではリナンバリングの話題は挙がらず、アドレスの節約という観点から一定の支持を集めました。結果的に中立の立場が多くを占めましたが、反対を掲げる参加者がほとんどいなかったこともあり、チェアの判断に基づきコンセンサスに至りました。

	prop-156:「IPリソースの一時的な割り当て」
提 案 者	Christopher Hawker氏 <a href="https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-156/">https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-156/</a>
概 要	<p>イベントなどの定常的分配がそぐわないケースの場合に確保したリソースから期限付きの割り当てを実施することを明記する。</p> <p>分配期間：6ヶ月 分配先：APNIC会員に限る 分配サイズ：IPv4:/24, IPv6:/32, ASN:1個 制限事項：営利目的での利用は禁止 分配元：IPv4:/21, IPv6:/29, ASN:8個を確保</p>
結 果	コンセンサス

APNICではAPRICOTをはじめ、非営利イベントなどにおいてそのイベントネットワーク構築を目的とした短期割り当てを行っています。現行のポリシーでは具体的な規定があるわけではなく、慣習として行われてきました。本提案ではこれらをポリシーに規定し、明確にしようとしていました。

介がされ、ケースバイケースで期間、必要な量が変化すること、多様な事例を理解して慎重に、適切な分配ルールの策定が必要とのコメントが出ました。

コンセンサス確認では中立が多く、反対派も一定数見られたのですが、最終的にはチェアの判断でコンセンサスとなりました。

会場での議論ではJANOGやAPRICOTのネットワーク構築の事例紹

	prop-157:「一時的なIPv4アドレス移転」
提 案 者	Jordi Palet Martinez氏 <a href="https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-157/">https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-157/</a>
概 要	<p>一時的なIPv4アドレス移転を以下のように定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本移転申請では移転日と終了日を記録する。</li> <li>・終了日は終了30日前までに移転元・移転先双方の同意によって延長可能とする。</li> <li>・移転可能な最大サイズは/22とする。</li> <li>・移転時にはアドレス利用計画を必要とする。</li> </ul> <p>・移転時は以下の遵守事項を守る必要がある。従わない場合には移転を取り消す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- アドレスの不正利用時に移転取消が可能である旨を移転条件に含む</li> <li>- IPv6アドレスも広報すること</li> <li>- 対象アドレスにRPKIを実装すること</li> <li>- IRRとGeolocationを更新すること</li> <li>- MANRSに準拠すること</li> </ul>
結 果	コンセンサスに至らず

短期間での利用を前提にレジストリに登録されている組織以外へIPアドレスの「リース」を行うことを規制しようという提案が何回かにわたって議論されてきました。しかし、「リース」の定義の曖昧さからなかなかコンセンサスには至らない実情となっています。本提案は「リース」を禁止するアプローチを変え、「リース」をIPアドレスレジストリ構造の中に取り込んでしまおうという提案でした。

レジストリシステムの外で分配管理が行われ、不透明であることが問題視されてきた「リース」をレジストリシステムへ取り込み、透明性を持って正しく管理しようという考え方には一定の理解ができるものの、現行の移転制度下でも双方向の移転を行うことで同様の対応ができ、わざわざ新しい制度を作る必要性が薄いこと、また現

制度の移転にはない遵守事項を付けることでルールを作っても利用されない恐れがあること等が懸念されていました。

会場からは、IPv4オンリーの小規模事業者からするとIPv6の広報が条件に入れられるのは厳しい、最大サイズ/22の制限では成長企業には足りないといったコメントが挙がりました。また、RIPE NCCでは一時移転のポリシーがあり、そちらにはこのような条件設定がないことなどがコメントされました。

コンセンサス確認では条件設定やポリシーの意義の面で折り合わず、反対多数でコンセンサスには至りませんでした。

	prop-158:「IPv4アドレス申請時のIPv6アドレス自動分配」
提案者	David Aditya Yoga Pratama氏、M. Andri Setiawan氏 <a href="https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-158/">https://www.apnic.net/community/policy/proposals/prop-158/</a>
概要	新たにIPv4アドレスを分配する組織にはその際に自動的にIPv6アドレス/32を分配する。 ・自動的に委譲されたIPv6アドレスは、委譲の日から2年以内に配備されるべきである ・APNICおよびNIRIはその後IPv6アドレスの利用状況について検証できる
結果	コンセンサスに至らず

現在のAPNICポリシー策定の前提として、「IPv6アドレス実装のためのIPv4アドレス分配」の考え方があります。そのため、現行のポリシーではIPv4アドレスの分配を受けている組織は、審査なしにIPv6アドレスの分配を受けることができるようになっています。しかし、IPv4アドレスのみの分配を受けることは禁止されておらず、そのような組織は多く存在します。IPv6化促進のため、IPv4アドレス割り振りの際に自動的にIPv6アドレスも割り振り、その利用を義務付けようというのが本提案です。

ネットワークのIPv6化は重要な課題ではあるものの、望まない組織にまで強制的に分配が行われる形式は不相当であるように思えます。

また2年以内の利用が条件としてあるものの、それに従わない場合の罰則が規定されていないため、ただ分配を行われ使われない可能性も考えられます。

会場の一部からはIPv6普及に効果的であると強い賛同のコメントがあった一方、マルチホームを要件に/24を得た人などは現行ポリシーよりも維持費が上がってしまうこと、IPv6を普及させることと強要することの違いなど厳しいコメントがそれ以上に多く挙がりました。

結果的にコンセンサス確認では大多数が反対の立場をとり、コンセンサスには至りませんでした。

## 次回以降のAPNICカンファレンスについて

今回のAPNIC 58は、2024年8月30日(金)～9月6日(金)、ニュージーランド・ウェリントンでの開催予定が発表されています。開催地決定の仕組みは、JPNIC Blogで記事としてまとめておりますので、こちらもご覧ください。

APNICミーティングはどこで開催されるの？

<https://blog.nic.ad.jp/2021/5846/>



APNICカンファレンスは、APNICメンバー以外の方にも広く門戸を開いています。ポリシー動向はもちろん、世界での最新技術動向やトレンドトピック、国際連携・国際交流に関心をお持ちの方は、ぜひ一度参加されてみてはいかがでしょうか。英語でのカンファレンスですが、同時英語字幕等、初心者や非ネイティブスピーカーへの配慮もなされています。また、YouTube Liveやアーカイブの動画を見ることもできます。皆様と、APNICカンファレンスの場でお会いできることを楽しみにしています。

# 技術トピック

技術トピックでは、2024年3月にオーストラリアのブリスベンで開催された、第119回IETFミーティング (IETF 119) を取り上げます。本稿では、技術動向とHot RFCについてお伝えします。Hot RFCのRFCはRequest for Conversationsの略で、一緒に議論してくれる人を募ったり、サイドミーティングへの参加を呼びかけたりするプレゼンテーションが、ライトニング形式で行われる会合です。正式には「Hot RFC Lightning Talk」と呼ばれます。

02 2024.3.16-3.22  
オーストラリア/ブリスベン

IETF 119



## 第119回IETF報告

### ▼ IABワークショップ - BIAS

IAB (インターネット・アーキテクチャ・ボード) では「インターネット・アクセスにおけるバリア (Barriers for Internet Access of Services (Bias))」と題してオンラインのワークショップが開催されました。

このワークショップは、インターネット上のコンテンツやサービスにアクセスする際の障壁、例えばフィルタリングやブロック、デバイス等における制限などについてのホワイトペーパーが募集され、ディスカッションが行われました。19本のホワイトペーパーが応募され、12本が公開。2件の招待講演が行われました。

**IAB Workshop on Barriers to Internet Access of Services (BIAS)**  
Dhruv Dhody, IAB Member, 5 Mar 2024  
<https://www.ietf.org/blog/iab-bias-workshop/>

セッションは三つのテーマについて開かれました。一つ目のテーマは「コミュニティ・ネットワーク」で、この概念についてはRFC7962にまとめられています。このRFCではインターネットの普及の仕方について論じられており、現在のWi-Fiの展開方法やサービス形態に関連するものも紹介されています。二つ目のテーマは「デジタル・デバイド」です。主に技術的な側面の明確化が図られていたようです。三つ目は「検閲」です。ISPがブロックを行う法的な枠組みやブロックが行われる箇所等について議論が行われました。

**IAB Barriers to Internet Access of Services (BIAS) Workshop Report, 3 Feb. 2024, M. Kuhlewind, D. Dhody, M. Knodel,**  
<https://www.ietf.org/archive/id/draft-iab-bias-workshop-report-00.html>

### ▼ IETF 119で行われたBoF

#### ○ IETF全体での"ディスパッチ"セッション

これまで、エリアの中で行われていた"ディスパッチ"のセッションが

IETF全体について行われました。ディスパッチとは、担当するWGがないドラフトについて、どこのWGが担当するのかを決めていくことです。

**IETF-Wide "Dispatch" Session (alldispatch)**  
<https://datatracker.ietf.org/group/alldispatch/about/>

#### ○ DNSにおける新しい移譲のレコードDELEG

新たに提案されているDELEGレコードは、DNSクライアントがDELEGレコードを通じて返されたサーバにSVCB (サービスバインディング) レコードなどを問い合わせることができるレコードです。これによって、サブドメインに関する問い合わせ応答のために必要な情報を、DNSクライアントは得おくことができるようになります。

**Extensible Delegation for DNS**  
<https://datatracker.ietf.org/doc/draft-dnsop-deleg/>

#### ○ さまざまな認証の仕組みを整理するSPICE

SPICE (Secure Patterns for Internet Credentials) はクレデンシャル (認証されていることを示すデータ) を扱う認証の仕組みを整理するための会合です。関連するWGにJOSE、OAuthがあります。

**Secure Patterns for Internet Credentials (SPICE) BoFのスライド**  
<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-spice-spice-bof-slides>

#### ○ ビデオトラフィックなどの通信の特性に応じた制御プロトコル

ビデオの巻き戻し再生などを行う制御を、データ伝送と同じ通信中 (パス) で行うためのプロトコルを扱うBoF。

**Secure Communication of Network Properties BoFのスライド**  
<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-sco-nepro-chair-slides>

## Hot RFC

IETF 119で発表された12件の概要をお伝えします。

**HotRFC Lightning Talks at IETF 119**  
<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/agenda-119-hotrfc-sessa-04.html>



**IETF 119:**  
**Hot RFC Lightning Talks (HOTRFC) 2024-03-17**  
08:00 - YouTube  
[https://youtu.be/ZDH5ealF\\_zc](https://youtu.be/ZDH5ealF_zc)



日本語訳した各発表タイトルと概要をご紹介します。

## ▼ 対称鍵交換 (KEX)

安全な対称鍵 (共通鍵) 交換のためのフレームワークとプロトコルを確立し、鍵交換システムをアプリケーションに統合するためのフォーマットとインターフェースの合理化をめざす。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-01-skex-00>



## ▼ DDoSの傾向と防御に対する問題

ネットワークの規模と技術の発展に伴い、DDoS攻撃はより頻繁に、より大規模に、よりインテリジェントになった。従来のシングルポイントなDDoS防御システムにおける課題である。多くの人々がDDoSを防御するために情報とリソース調整に関わることが重要。協調した防御をデプロイする過程で、協力するためのシグナリングや技術フレームワークなどを標準化する必要がある。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slide-s-119-hotrfc-sessa-02-ddos-trends-and-defense-issues-00>



ドラフト:

<https://datatracker.ietf.org/doc/draft-cui-dots-extended-yang/>



<https://datatracker.ietf.org/doc/draft-cui-savnet-anti-ddos/>



## ▼ ネットワークのための大規模言語モデル (LLM)

GPTに代表される大規模言語モデル (LLM) は、機械翻訳やテキストから画像への生成などのさまざまな分野で目覚ましい性能の向上がある。LLMはその膨大な数のパラメータのおかげで、大量の知識を記憶し、コマンドに基づいたツールを利用できる。LLMがネットワークでのタスクも支援できると考えている。ネットワーキング領域におけるLLMの変革の可能性を探り、このトピックに関する標準化の可能性について議論を行う。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-03-large-language-model-llm-for-networking-00>



## ▼ ルーティングネットワークにおける独立サービスID

多くの新しいアプリケーションが登場し、高度に分散化されたエニークラウドサービスの利用可能性と共に、いつでもどこでもネットワーク接続を確立したいという要求が高まっている。このような要求は、異種エンティティを効率的に相互接続する必要性を動機付け、オーバーヘッドなどのコストを削減する一方で、全体的なパフォーマンスが要件を満たすようにする。相互接続と効率的な調整の鍵は、相互運用可能な統一インタフェースを採用することだ。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-04-standalone-service-id-in-routing-network-00>



ドラフト:

<https://datatracker.ietf.org/doc/draft-huang-rtgwg-us-standalone-sid/>



## ▼ ネットワーク機器のためのアタックサーフェス管理

ネットワーク機器におけるアタックサーフェス管理のユースケースと定義を提供し、そのためのYANGモデルを定義する。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-05-threat-surface-management-for-network-element-00>



ドラフト:

<https://datatracker.ietf.org/doc/draft-hu-network-element-tsm-yang/>



## ▼ Universal Name System (UNS) と Universal Certificate Authority (UCA) についてのアップデート

ITF 118にて紹介したUNSとUCAについて、最新情報を提供する。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-06-update-on-the-universal-name-system-uns-and-universal-certificate-authority-uca-00>



## ▼ DNSを基にしたルート証明書再検証によるデジタルトラストの促進

ルート証明書の完全性はサイバーセキュリティの基盤だが、なりすましや悪意のある、あるいは危殆化した証明書の拡散は、安全なデジタル通信に重大なリスクをもたらす。本提案のDNSを基にしたルート証明書の再検証は、専用の.cert/.certsドメイン名を活用してルート証明書の真正性を定期的に検証する。脅威、アプローチ、詳細なプロセスの振り付け、技術的構成について概説し、革新的なDNSの使用を通じてデジタルトラストを促進する。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-hotrfc-dns-based-certificate-re-validation-00>



## ▼ 人道的ICT

人道的ICTの概念を定義し、人権文書および国際人道法を支援するために重要な作業・サービスに対する支援を優先するための範囲、重要性、およびメカニズムを定義する。クレデンシャルの使用を組み込んだ Agent Discovery Profile (ADP) の使用に対処することをめざす。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-08-humanitarian-ict-00>



## ▼ エージェント発見プロトコル

エージェント発見プロトコル (ADP) は、ドメイン内の関連サービスのシームレスなディスカバリーを可能にし、ウェブ上のエージェントインタラクションに革命を起こすことを目的とする。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-09-agent-discovery-protocol-00>



## ▼ ネットワーク資源の安全な通信 (SCONEPRO・旧称SADCDN)

安全なオンパス・プロトコルを使ったネットワークを介して受信したネットワーク資源に対する受信者ベースの適応に基づいて、ストリーミング映像のネットワークパフォーマンスとユーザー体験を改善する方法に取り組む。

スライド:

<https://datatracker.ietf.org/meeting/119/materials/slides-119-hotrfc-sessa-10-scone-pro-02>



# ドメイン名・ガバナンス

本稿では、2024年2月～2024年7月にかけての、ドメイン名およびインターネットガバナンスに関する動向として、第79回ICANN (The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers) 会議の様相をご紹介します。インターネットガバナンスの動向については、P.6からの特集2をご覧ください。



03 2024.3.2 → 3.7  
プエルトリコ/サンファン

第79回ICANN会議



## 第79回ICANN会議

第79回ICANN会議(以下、ICANN79)は、2024年3月2日(土)から7日(木)までプエルトリコのサンファンで開催されました。本稿では、gTLDに関する動向に加え、ASO関連の議論などGNSO以外での議論についてもご紹介します。

### ▼ASO ACワーキングセッション

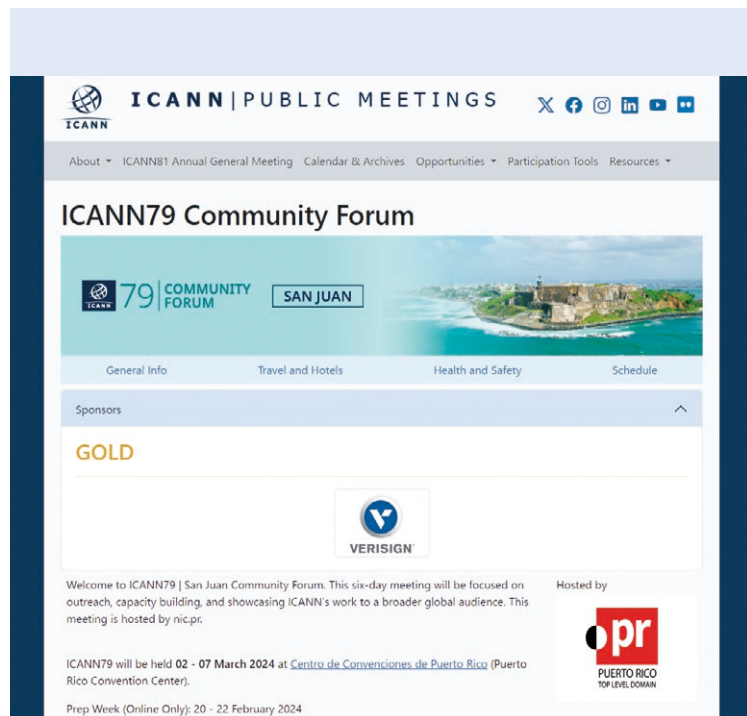
ASOアドレス評議会(Address Council)は、会期中に12ものワーキングセッションを持ちました。月曜日から水曜日まで3日間4セッションずつ、終日を費やす集中検討だったということです。新たな地域インターネットレジストリ(RIR)の設立を承認する基準を定めた、ICP(Internet Coordination Policy)-2<sup>※1</sup>の改定検討のためのものです。

現在アフリカ地域のRIRであるAFRINICが、差し止め請求に基づく裁判所の命令によって理事の指名ができない状況になっています。そのため、日常業務を越える経営判断ができないという機能不全に陥っていて、他のRIRsやICANNが事態の收拾に取り組んでいます。機能不全の立て直しそのものは、司法当局とのやり取りを中心とした、AFRINICが設置されているモーリシャス国内の作業となります。これ以外に、ASOではICP-2がこのような機能不全になるケースを想定していないことを認知し、2023年10月にNRO EC(RIRのCEOたちによる委員会)からASO ACに対して検討を依頼しました。ACは2024年1月にウルグアイ・モンテビデオ(LACNICオフィスの所在地)で合宿検討を行っており、ICANN79は2度目の集中検討となりました。

セッションでは、今までの実績や実態に関わらず白紙の状態から、「RIRとは何なのか」「RIRは世界にいくつ必要なのか」といったレベルの議論を丹念に繰り返していました。例えばRIRの数に関しては、仮定として6という数字を使っていました。現在RIRは五つですが、現状と違う数字を仮定すると、どうやったら増えるのか、増やすときのプロセスは何か、といった形で、想像が広がります。ASO ACでは、この検討に2年間くらいじっくりと取り組む予定のようです。

### ▼ルートサーバシステム・ガバナンス・ワーキンググループ(RSSGWG)

もう一つ、息の長い議論が続いているのが、RSSGWGです。インターネットの起こり以来、ルートサーバ運用者の協議によって運営要領が定められていたRSSに、他のステークホルダーを交えてガバナンススキームを新たに定めることを目的に、WGが設立されたのが2020



第79回ICANN会議はサンファンで開催されました

年。感染症禍の期間には月次のWeb会議でしたが、実地開催が再開した2022年6月ICANN74ハグ会議からは、毎回のICANN会議でワーキングセッションを数回設定して、議論を進めています。全体的な議論内容に関しては、RSSGWGのコミュニティWikiページ<sup>※2</sup>や、WGメンバーである株式会社日本レジストリサービス(JPRS)の堀田さんからのICANN報告会での報告資料<sup>※3</sup>をご覧ください。

今回のRSSGWGセッションで検討されたテーマの一つは、「RSSガバナンスに関連して意見を言えるステークホルダーは誰か」でした。ルートサーバがトップレベルドメイン(TLD)名を解決するという点から、TLD運営者はステークホルダーに違いありませんが、問い合わせに応じるという意味では、全世界のリソルバ運営者にもサービスを提供していることとなります。それ以外にも専門家やIANAなど、ルートゾーンの運営に寄与したり、影響を及ぼす関係者は少なくなく、それらを列挙し、オライナー図で関係を示したり、その結果を表に落とし込んでみたりと、細かい作業が進行していました。

## ▼ガバメントエンゲージメント(GE)チームアップデートセッション

最近のICANN会議で、最終日に開催される公開理事会前の恒例となっているのが、「地政学、法制、規制に関する最新動向」と題された、GEチームのアップデートセッション<sup>※4</sup>です。

GEチームは、政府間組織(IGOs)や各国政府における、インターネット政策やデジタル政策の動向を注視しています。このセッションは最新動向が簡潔にまとまっており、情報価値が高いものとなっています。またレポートなどもGEのWebページ<sup>※5</sup>で公開されていて、この領域の動向把握にとっても役立ちます。

おりしも、2024年9月に開催される国連未来サミットで議論されるグローバルデジタルコンパクト(GDC)や、2025年の国連総会で議論される世界情報社会サミット20周年レビュー(W SIS+20)の検討プロセスが進んでいる最中で、このセッションも単なるアップデートに留まらず、フロアマイクに並んだ参加者からは、これらのプロセスの中でマルチステークホルダーアプローチの堅持に向けて一丸となって取り組むべきだ、といった熱気を持った発言が相次ぎ、非常に盛り上がったセッションとなりました。WSIS+20に関しては、GEチームがオープンなメーリングリスト<sup>※6</sup>を開設したことが公表されました。こちらのメーリングリストの議論も活発です。

## ▼David Olive氏最後のICANN会議

David Olive氏は、14年にわたってICANN事務局のポリシー策定サポート(Policy Development Support)チームを導いた幹部職員ですが、2024年5月末にICANNを退職することが、ICANN79会議の直前に発表されました<sup>※7</sup>。

PDSチームは支持組織や諮問委員会における議論の事務処理を一手に引き受ける部署ですが、そのトップであるOlive氏は、その温和で優しく紳士的な人柄が、職員だけでなくコミュニティメンバーにも愛された方でした。Olive氏の幹部職員として最後となるICANN79会議では、「Team David」と書かれた大きな缶バッジが用意され、職員だけでなく理事やコミュニティメンバーもそれを名札に付けていました。私も、主に理事の在任期間に大変良くしていただきました。今後のOlive氏の、奥様との健やかで穏やかな生活をお祈りします。

## ▼最後に

今回の会議報告は、GNSOに関してあまり触れない、非常に例外的な内容となりました。しかしながら、ASO ACとRSSGWGの議論は、インターネットの発展とともに少しずつ増強してきた仕組みを、再定義

するような本質的な議論として非常に興味深いものです。GEチームのセッションは、そのような不断の取り組みとともに、技術コミュニティの自治によるグローバルインターネットの基盤運営を、国際社会にキチンとアピールしようとするコミュニティの意思が現れているように思いました。

## ▼第69回ICANN報告会

第79回ICANN会議での議論を紹介する報告会を、2024年4月16日(火)に、オンラインにて開催いたしました。当日のプログラムは次の通りです。

1. ICANN79会議概要報告
2. 国コードメイン名支持組織(ccNSO)関連報告
3. ICANN政府諮問委員会(GAC)報告
4. GNSOレジストリ・レジストラ部会報告
5. 次期新gTLD申請手続きポリシー検討状況報告
6. 理事会を中心とした活動の報告
7. ICANNの技術政策情報に関する報告

第69回ICANN報告会の資料と動画は次のURLで公開していますので、本稿と併せてぜひご覧ください。

### 第69回ICANN報告会

<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20240416-ICANN/>



## ▼第80回ICANN会議

次回会合である第80回ICANN会議は、ルワンダ・キガリで2024年6月10日(月)から13日(木)まで開催されました。このキガリ会議の内容は、次号88号でご紹介します。

### ICANN80 Policy Forum Kigali

<https://meetings.icann.org/en/meetings/icann80/>



なお、今回ご紹介した第79回ICANN会議のさらに詳細なレポートは、JPNIC Webでご覧いただけます。詳しくは次のURLをご覧ください。

### 第79回ICANNサンファン会議報告

<https://www.nic.ad.jp/ja/mailmagazine/backnumber/2024/vol2072.html>



※1 ICP-2: Criteria for Establishment of New Regional Internet Registries  
<https://www.icann.org/resources/pages/new-rirs-criteria-2012-02-25-en>

※2 RSSGWGコミュニティWikiページ  
<https://community.icann.org/pages/viewpage.action?pagelid=120820189>

※3 第68回ICANN報告会「ルートDNSサーバーシステムに関する報告(RSSAC及びRSSGWG)」  
<https://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/20231130-ICANN/icann68-4-hotta.pdf>

※4 Geopolitical, Legislative, and Regulatory Developments Update  
<https://icann79.sched.com/event/1a1Ay/geopolitical-legislative-and-regulatory-developments-update>

※5 ICANN: Government and Intergovernmental Organization Engagement  
<https://www.icann.org/en/government-engagement>

※6 ICANNコミュニティWiki: WSIS+20 Mailing List  
<https://community.icann.org/pages/viewpage.action?pagelid=311230498>

※7 ICANN Blog: Executive Team Update  
<https://www.icann.org/en/blogs/details/executive-team-update-23-02-2024-en>